

資料配布の場所・日時

1. 北海道庁道政記者クラブ
2. 札幌市政記者クラブ
3. 北海道建設記者会
4. (株)建設行政新聞社

日時：令和8年6月15日（14：00）



JF

海洋建設株式会社

福島町役場
福島吉岡漁業協同組合
寒地土木研究所
海洋建設株式会社
令和8年6月15日

北海道福島町、試験放流したナマコの著しい成長を確認 ～中間育成により、資源増大へ手応え～

北海道福島町は、ナマコの間中育成試験において、放流した種苗が約半年間で30倍の重量にまで元気に大きく育っていることを確認しました。試験では、育成礁「ナマコのゆりかご」を活用し、放流後に減耗しやすい稚ナマコを保護しながら育成。ナマコ資源の増大や将来的な生産拡大につながる取組みとして期待されており、将来的な本格導入を目指します。

福島町は、養殖コンブ、ウニに次ぐ水産資源としてナマコに注目し、「ナマコ稚仔放流事業」に取り組んでいます。本事業は、水産業の振興を目的として静穏域を活用し、ナマコ資源の維持・増大を図る試験的な取組みです。

昨年11月にナマコ育成礁「ナマコのゆりかご」内にナマコ種苗を放流、本年5月下旬に約半年間の育成期間を経て礁を陸揚げし、礁内におけるナマコの成長状況を調査しました。

調査の結果、礁内の稚ナマコの著しい成長が認められ、体長では放流時の約2cmから約5cmへ約2.5倍、重量は約0.1gから約3gへ約30倍に増加していたことが確認されました。これまでの研究で4～5cmのサイズまで成長した稚ナマコではカニやヤドカリ類、ヒトデといった外敵による捕食リスクが低いことが報告されているため、「ナマコのゆりかご」内で大きく成長した稚ナマコを漁場に再放流することで、放流効果の最大化につながることを期待されます。

福島町では、同様の中間育成試験を令和8年度及び令和9年度にも実施し、これら3か年の成果を踏まえ、ナマコを地域資源として育て、浜の活力向上と地域漁業の持続的発展につなげていきます。

※本事業で導入している「ナマコのゆりかご」は、寒地土木研究所と海洋建設株式会社が共同開発し、特許を取得した技術。放流種苗の保護・育成に適した中間育成礁として、従来課題であった放流後の稚ナマコ（体長約1cm以上）の生残率・成長率の向上が見込まれ、ナマコ資源の増大および生産量の拡大が期待される。



稚ナマコを取り出す様子



「ナマコのゆりかご」内で成長した稚ナマコ



漁場に再放流された稚ナマコ

【問合せ先】

○ナマコ種苗放流試験事業について

福島町役場 産業課 課長 福原 貴之、係長 尾崎 司宙

TEL: 0139-47-3002, Email: suisan@town.fukushima.hokkaido.jp

○「ナマコのゆりかご」について

国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 上席研究員 西崎 孝之、研究員 稲葉 信晴

TEL: 011-841-1695, nishizaki-t22aa@ceri.go.jp (西崎), inaba-n@ceri.go.jp (稲葉)

○「ナマコのゆりかご」仕様について

海洋建設株式会社 水産環境研究所 穴口 裕司

TEL: 086-473-5508, Email: yanaguch@kaiyoh.com